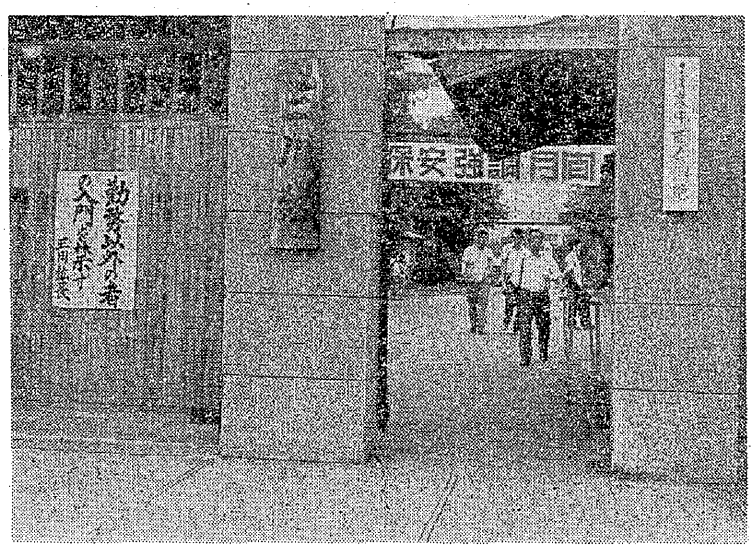
会社が保安強調月間

アゴばかり、と職場

実際の施策に監視の目が

会社は九月を〝保安強調月間〟だとして、所長告示をもって「事故絶滅に一段の努力を」と呼びかけた。それに対して、職場は「アゴばかりの保安強調だ、何ばいうか」、と冷たいが……。



〝保安強調月間〟と〝書かれた垂れ幕の下を、労働者は何と思つて歩いているだろうか。

公傷かくしやめよ

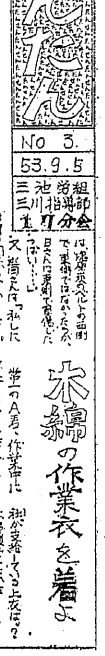
会社はこの九月を、「保安強調月間」だとして保安運動を行っている。これは、十一年前に三川鉱で坑内火災（昭和四十二年九月二十八日。死者七人、CO患者多数出る）をひき起こした月を、とくに保安を強調すべきだとして計画したものに違いない。

会社はそのために、垂れ幕をはり、また、九月五日発行の社内報〝くろだいや新聞〟を通じて「事故絶滅に一段の努力を」（所長告示）と呼びかけている。

右の新聞はすぐ職場の組合員が編集部にもってきてくれ、憤然とした面もちでまるでハキ棄てるようにいった。

「公然とですよ、公傷かくしに血道をあげておきながら、何ばいうかといいたかですよ。保安強調月間なんち、アゴばかりです。こげんかことをいう前に、公傷かくしなんちいうことをやめることですよ。太か字で、機関紙〝みいけ〟に書いてください」

ともあれ、〝くろだいや新聞〟紙上に掲げられた織田亮三郎所長の告示は次の通りだが、この告示が文字通りに現場で実施されるためにも、厳重な監視の目が大切である。



No 3.
53.9.5
組合部
三川指導部
三川支部

所長告示

各部鉱においては日夜、保安に生産に、精励されており、その労苦に対し深く謝意を表します。

さて、当三池鉱業所においては五十三年上期の保安目標として死亡災害ゼロ、百万人当たり災害率九三・八を設定し、その達成に努力してきましたが、残念にも四月、五月と連続して災害が発生しました。

しかし、その後、種々の対策とその実施については、各位の努力により保安成績も逐次向上し、上期も余すところ一カ月余りとなりました。

ここにおいて「保安強調月間」を設け、今次災害の反省を行い、再びこのような事故が起きないよう、さらに一段の努力を要望します。

実施期日＝九月一日より九月三十日まで。

坑底で負傷者絶えず

有明鉱の払で、九月十一日二件の負傷災害が起き、入院したことが職場から伝えられ、依然として三池炭鉱全山で保安状況が悪いことが不安がられている。

三池では、盆を中心に五日という長休みがあったにもかかわらず、八月いっぱいで七十人という負傷者が出た。（会社保安部発表）しかしこの統計以外にも、公傷かくしをはかる会社の保安部あずけや現場あずけの形で、消されている負傷者が多いはず。なお三川鉱では、山鳴りのため一部掘進を中止しているところもあると。

三川指導部17分会発行の新聞〝せんたん〟。9月5日発行の分が出たが、今年創刊されると着実に発行している。職場にかくされている問題を掘り起こした内容がよい。がんばろう。

職場新聞活動に火を

打ち続く足踏み状態、決起求める周囲の情勢

一部をのぞいて、職場新聞活動が足踏み状態に落ちいっている。そのため、職場の要求や不平・不満、そのほかいろんなことが放ったらかされたままだ。すべての職場新聞が一日も早く本来の生気をとりもどし、その活動の火が競い合って燃えあがるための努力が強くのぞまれる。

周知のように、組合はきびしい現実に直面している。そのためにこそ、組織内部の揺れも大きい。

「組合民主主義の確立」をのぞむ声がまき起こっているのは、当然なことであろう。

そのために何といっても不可欠なことは、職場新聞の奮起だ。いや応なしに、新労組員や社外工と会社が公然と行っている、暴力にひとしい〝公傷かくし〟がもっとも良い例で、この理不尽な人権侵害は、資本のファッショ支配の一典型だろう。これは、絶対に許すことができない。次つぎに告発して闘うことだ。

二つには、職場仲間一人ひとりの自由を擁護し、そして資本から独立するための努力をはげまし、助けること。

三つには、以上のためにも、仲間を団結させること。一人は万人のために、万人は一人のために、のスローガンがそのことを教えている。

四つには、たとえ思想信条や考え方に違いがあろうとも、仲間同志、きたるべき日には必ず一つに結ばれるはずの労働者だ、との信頼を決してうしなわぬこと。

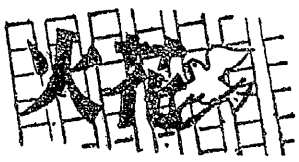
むしろ考えや思想信条の違う仲間の意見にこそ、謙虚に耳をかたむけ、またその要求や希望などをうけ、さらに一段の努力を要望します。

五つには、とりわけ職場新聞活動には苦労がともなうものだが、その苦労を乗りきってこそよろこびを手にすることができ、さらに活動する者自身の人間を豊かにもしていくものだ、との確信をもつこと。秋闘から、七九春闘。情勢はすべての職場新聞活動者の決起を強く求めている。

こそ大切に、より優先して取り扱うこと。

思い出す受川さんのこと

北海道　浜中　利恵



遅くなりましたが、CO守る会費を送金します。

きのう機関紙〝みいけ〟に受川さん（重症のCO患者。植物人間）が、「痛い、痛い」と言葉を出されたという記事があったのを読みました。私は昨年三池にまなぶ婦人集会に参加した折り、熊大病院にお見舞いにいき、お母さんのお話しをうかがうことができました。それだけに、言葉を出されたことをよろこんでおります。受川さんが「合理化の生き証人」であることを見せつけられた感じでした。

それなのに三池では、坑内事故があったようですね。三井の保安サボだろうと思います。

私達の職場は事務が主ですので直接命にかかわる労働ではありませんが、人事異動に伴う人員の削減や電算事務の委託、休憩時間の剝奪などの攻撃がやんわりとかけられてきています。地域や職場の違いはあれ、資本の側の論理は貫かれているし、そのためどこの労働者も犠牲になっているのです。共に頑張りましょう。

×

浜中さんのお住まいは「北海道中川郡音威子府村字音威子府」です。ありがとうございました。

主婦業にあまんじながらも

和歌山　藤崎　裕子

「三池に学ぶ婦人集会」では、大変お世話になりました。報告文集ができましたのでお送り致します。

私は七月二日に結婚しまして、今和歌山にいます。住友金属の家族寮ですが、今もって寮の人達と口をきいた事がなく、さびしい思いです。

早く仕事に就きたいと思っていますが、まだおちつかないので主婦業にあまんじている所です。

早くみんなと学習したいと思いますが連絡もとれず、その上足をいため歩くのが困難なので、気ばかりあせって仕様がありません。人権擁護の係の方に相談に行き、泣いて帰ってくるのは住金の家族寮にいる主婦だ、ということです。だれも知らない人ばかりの中でのひとりきりでは、たまらないことです。資本の意図する中にはまっている現実だ、と思います。

これからも、学習しなければならないと思います。ご指導をよろしくお願い致します。

×

藤崎さんの旧姓は「山崎さん」でした。ご結婚おめでとうございました。これからは、まずよいご家庭づくりのためにがんばってください。

なお右のお便りは、荒尾市原万田町一五二、万田社宅西町四棟の清水栄子さんに寄せられてきたもので、現住所は「和歌山市古屋四二の二、住友金属古屋アパート三四〇二」です。

すごい人員削減

【連合】民間大手百八十五社で四年間に二十一万人もの人員削減が行われた事実が、民間の調査機関、産業労働調査所の調査（九月五日発表）で明らかになった。一九七四年三月と七八年三月の四年間の従業員数を上場企業千八百社のうち業界最大手の二百五十社を選びアンケートと有価証券報告書をもとに調べたもの。調査対象の七四％にあたる百八十五社で合計二十一万五千五百人近い削減が行われており、一社平均千百六十五人となっている。